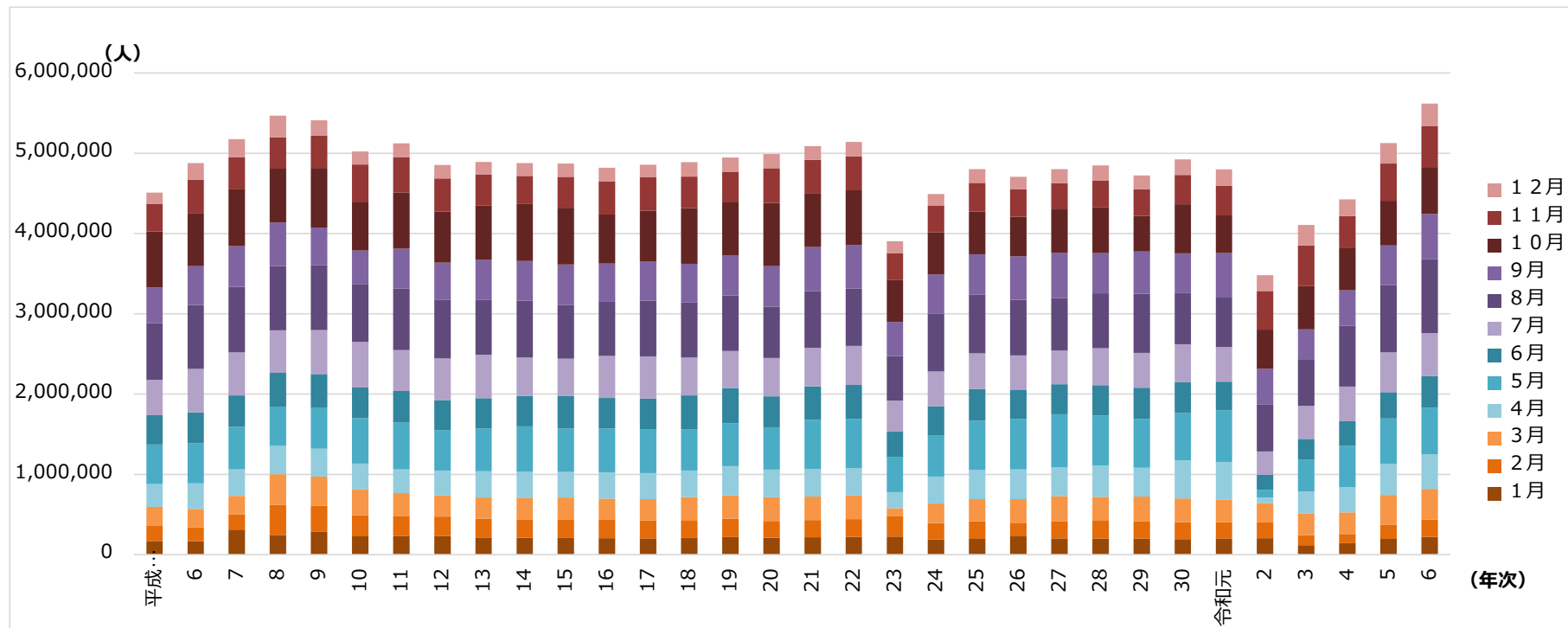


〈那須町〉観光客入込みの推移



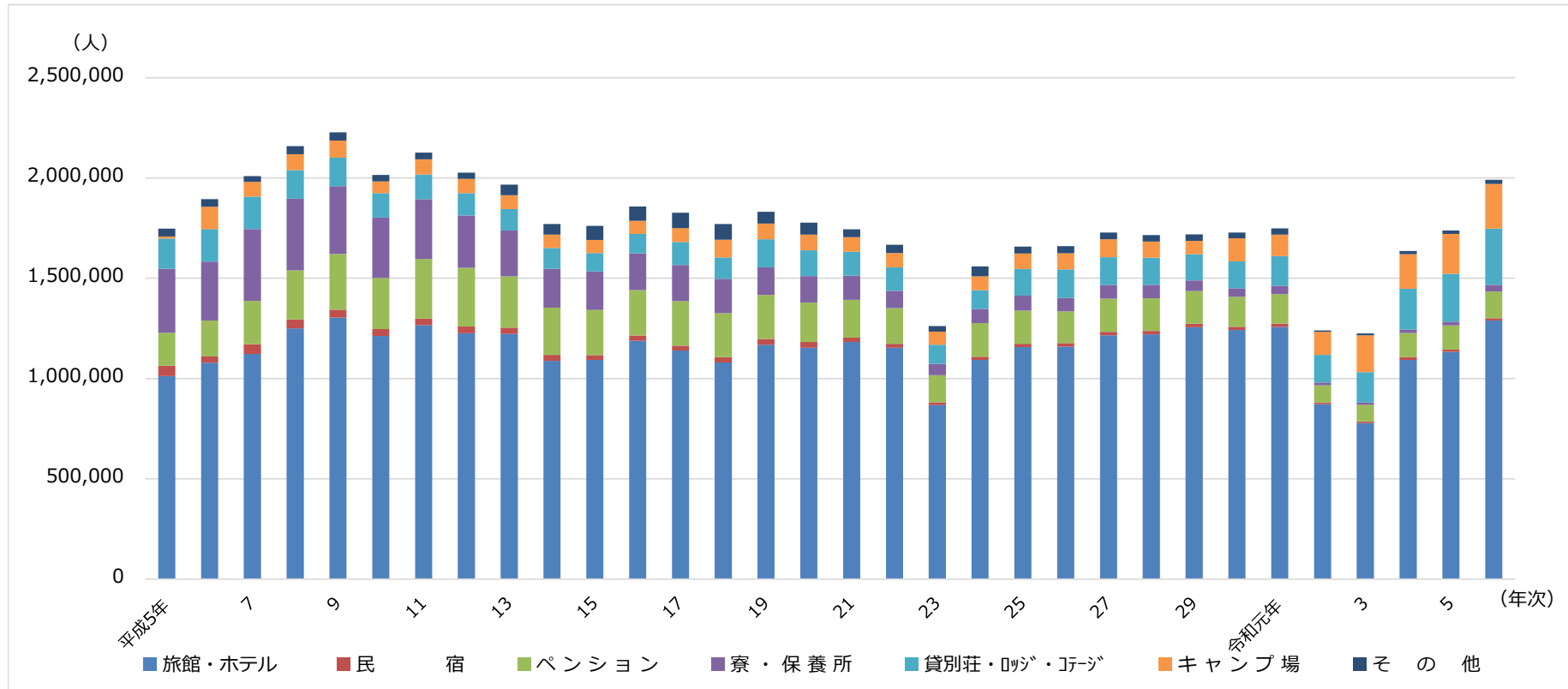
令和6年の那須町の観光客入り込み客数は平成6年以降で過去最高となった。その背景には、いくつかの要因が影響したと考えられる。

まず、全国国内の旅行動向については、コロナの収束によって高まった旅行への意欲が落ち着きをみせ、前年よりやや減少傾向にある。（約95%前後で推移）

令和6年の大型連休においては天候が落ち着いている日が多く、多くの観光客が那須を訪れるきっかけとなった。特にゴールデンウィークや夏休みといった主要な観光シーズンにおいて天候が安定していたため、アウトドアアクティビティを楽しむ旅行者が増えたと考えられる。町内の周遊が行われたと見受けられるのは、屋内施設の入り込みが大幅に増加したことで読み取れる。また、那須を選ぶ理由としては、有名旅行会社の旅行動向調査から自然公園が楽しめる場所（国立公園）、動物園や水族館、自然が楽しめる場所（登山やアウトドア）が上位を占めていること、旅行先としては関東が選ばれていることから、いずれも該当する那須町を選んだのではないかと推察できる。

さらに、那須地域が進める「Nasuways」プロジェクトの効果も徐々に表れてきた。町内外の交通や観光施設との連携が強化され、観光客が町全体を回遊しやすくなったことで、年当初が徐々に観光消費の拡大につながったと考えられる。

〈那須町〉 年別宿泊施設利用状況



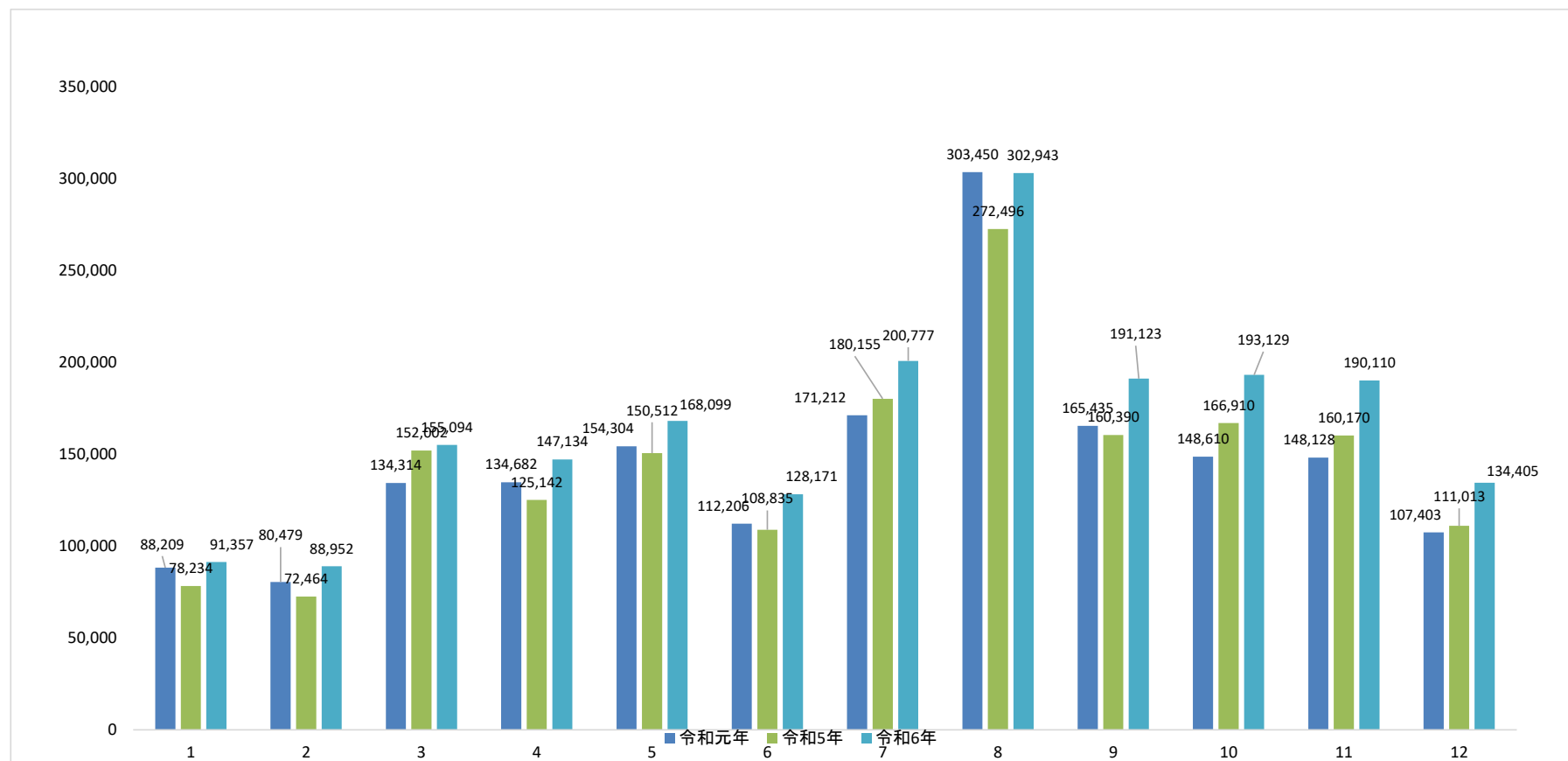
令和6年の那須町における宿泊数は大幅に増加し、特に旅館・ホテル、キャンプ場、その他（貸別荘・ロッジ・コテージ）の宿泊者数が顕著に伸びた。

旅館・ホテルの宿泊者数は1,289,320人となり、前年の1,132,402人から156,918人（約113%）増加した。これは観光入込客数の増加に伴い、主に家族旅行が増えたこと、観光入込客数の増加要因と考えられる、「Nasuways」やSNSPR事業が観光地の魅力向上に繋がったことで、泊を伴った観光地巡りを旅行者が選択したのではないかと考えられる。

キャンプ場の宿泊者数は222,951人となり、前年の198,448人から24,503人（約12.3%）増加した。全国的にもキャンプやアウトドアのブームは減少傾向にあるが、那須町においては10%以上の増加傾向にある。那須町は避暑地であることからキャンプが最適な夏秋の気温が一定であることやキャンプ場だけでなくグランピング施設も多くあるため、全国のおすすめキャンプ場や関東おすすめキャンプ場にも掲載、グランピングにおいても透明ドームを使用した施設、2023年にオープンした日本初の湖上グランピングなどがあり注目を浴びていることが要因といえる。

貸別荘・ロッジ・コテージの宿泊者数は280,535人となり、前年の238,642人から41,893人（約117%）増加した。観光入込調査同様に自然公園や自然が楽しめる場所を目的として来町する観光客が増加したことから、滞在先についても自然を堪能しながらゆったりとした時間を家族や友人と気兼ねなく過ごせる貸別荘やロッジの人气が高まったといえる。また、観光庁がワーケーションの普及を推奨しており、より静かな環境で仕事をしながら観光を楽しむスタイルの旅行者が増えたのではないかと推察できる。

〈那須町〉 宿泊施設月利用状況



令和6年の那須町における月別の宿泊者数は、令和5年と比較して全体的に増加傾向にあり、特に夏から秋にかけての宿泊者数の伸びが顕著だった。

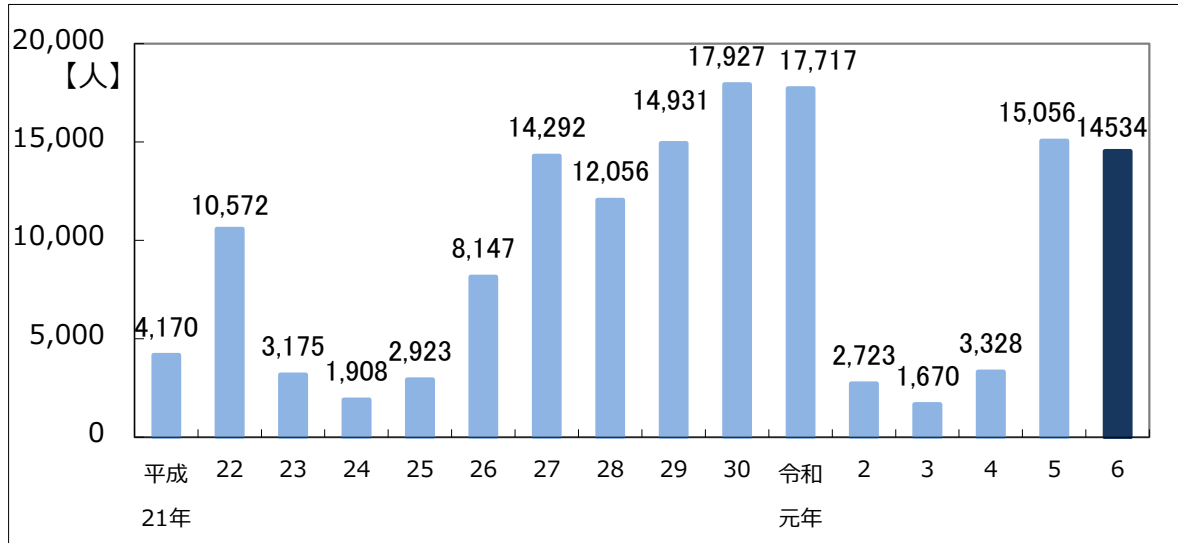
7月の宿泊者数は200,777人となり、前年の180,155人から20,622人(約114%)増加した。これは、夏休み期間中の家族旅行や避暑地としての那須町の人気が高まったことが影響していると考えられる。また、8月の宿泊者数も302,943人と前年の272,496人から30,447人(約112%)増加し、観光需要の回復が顕著に表れている。特に、イベントや地域プロモーションの効果が出たことや、アウトドアやリゾート滞在を目的とした旅行者の増加が寄与していると考えられる。

9月以降も宿泊者数の増加が続き、9月は191,123人で前年の160,390人から30,733人(約119%)増加し、10月は193,129人で前年の166,910人から26,219人(約115%)増加した。秋の紅葉シーズンに向けた観光需要の高まりや、気候の良い時期における旅行需要の増加が影響していると考えられる。さらに、11月の宿泊者数は190,110人となり、前年の160,170人から29,940人(約118%)増加し、年間を通じて秋の旅行需要の高まりが見られた。

また、冬の宿泊者数も増加しており、1月は91,357人で前年の78,234人から13,123人(約116%)増加、2月も88,952人で前年の72,464人から16,488人(約122%)増加した。これは、温泉需要の高まりや関東圏から近いゴルフ場などの施設が多いことが影響していると考えられる。

これらのデータから、令和6年は年間を通じて宿泊者数が増加しており、特に夏休み期間や秋の行楽シーズンの伸びが顕著だったことが分かる。観光需要の回復に加え、地域の魅力発信やプロモーションが効果を上げたことが、宿泊者数増加の要因として考えられる。

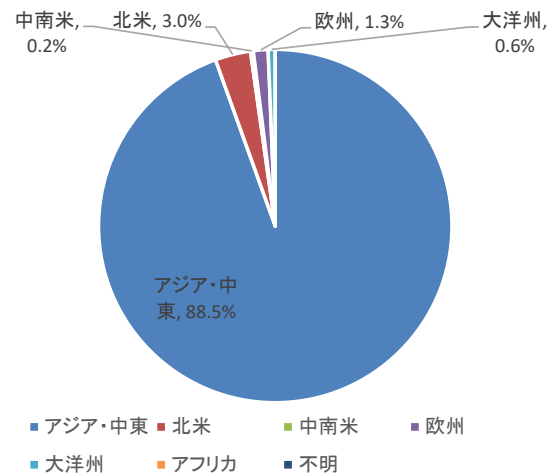
〈那須町〉外国人観光客宿泊者数



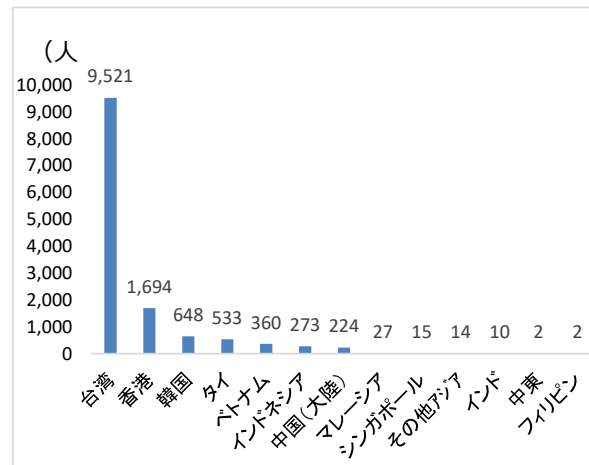
全国的にみるとオーバーツーリズム等もあるが、那須町は令和6年については昨年より約500名減少した。地域別で見ると昨年同様に那須町は台湾からの訪問が多いことがわかる。福島空港の就航便の影響もあり、那須町も周遊ルートに入っていることが考えられる。タイの現地エージェントからの話によると、アジア圏の日本への旅先は花や景観を重視しているとのことである。

雪についてはやはり北海道のイメージが強い、那須には温泉をはじめ、紅葉や登山、花などインバウンド向けのコンテンツもあることから、さまざまな場面でPRしていきたい。

令和6年 外国人宿泊数（地域別割合）



令和6年 外国人宿泊数（アジア・中東）



令和6年 外国人宿泊数（月別）

